

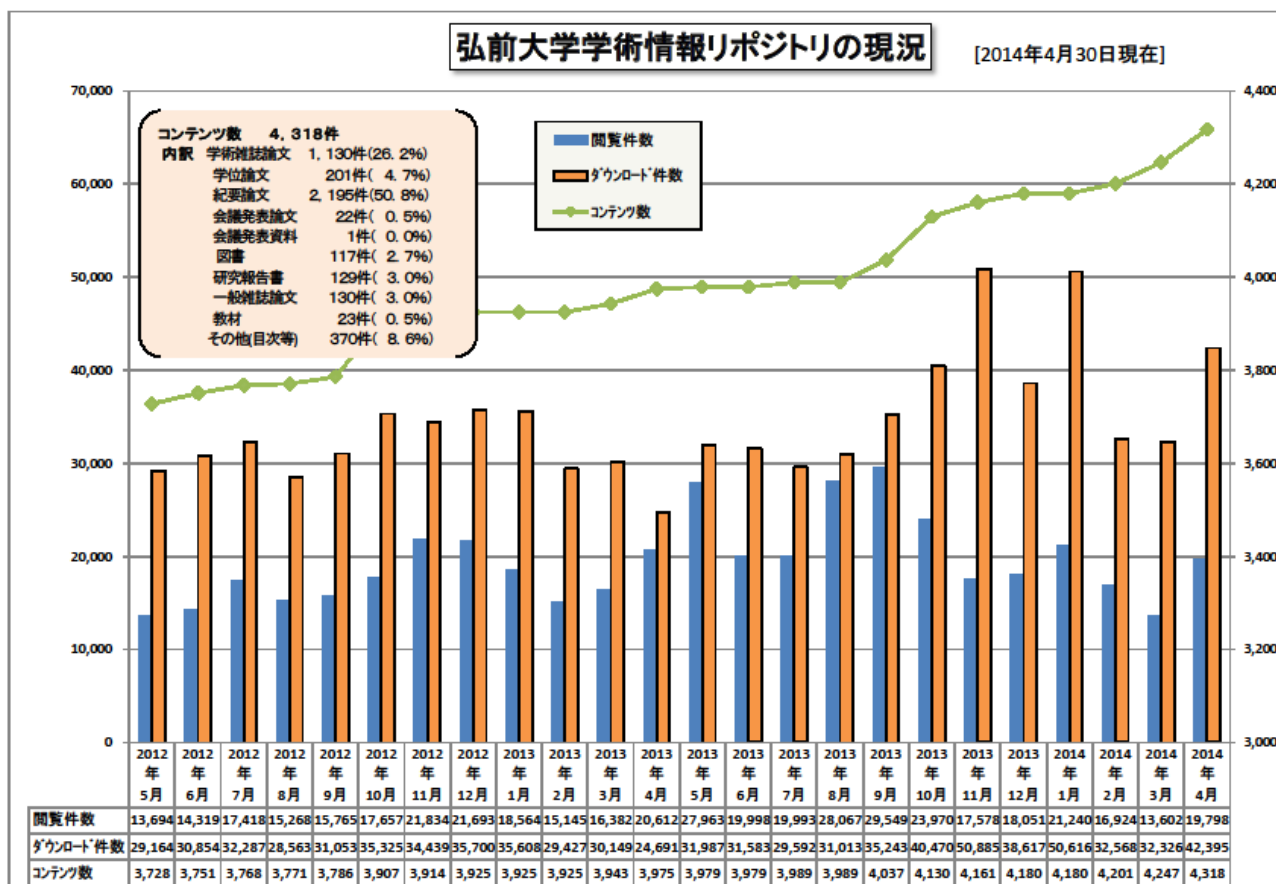
図書館に関する話題 第13回

弘大リポジトリのトピックスあれこれ

研究推進部学術情報課 齋藤 香織

今回は、弘前大学学術情報リポジトリ（以下、弘大リポジトリ）の最近のトピックについてご紹介します。

弘大リポジトリは現在、附属図書館業務の一つとして運営されています。2008年5月に正式公開され、はや6年が経ちました。学外での（学内でも？）知名度は今一つの感もありますが、実は地味に数字を伸ばしています。2014年5月現在で、収録コンテンツ数は4,300件以上、2013年度の月平均ダウンロード数は約35,800件となっています。2012年度の月平均は約32,000件ですので、1.2倍に増加しました。



また、スペイン高等科学研究院の世界リポジトリランキング最新版（2014年1月版）では、日本国内135機関中15位にランクされました。弘大リポジトリは国立大学のリポジトリとしては、それほどコンテンツ数が多い訳ではありませんので、それ以外の部分、検索エンジンでのヒット率やSNSでの注目度が高く評価されたのではないかと推測します。また、21世紀教育センターと農学生命科学部よりお申し出があり、合計約180件の紀

要論文等を新規登録できたことも、更新頻度が高いという評価につながったものと思われます。

最近の大きな動きとしては、2013年度より博士論文のインターネット公開が法律（学位規則）により義務化されました。博士課程に在籍中の方および進学予定の方は、ご自分の博士論文がいずれインターネット公開され、世界中からアクセス可能となることを頭において論文をご執筆いただければと思います。

学術雑誌への投稿論文を学位論文とする場合は、出版社との間で著作権の問題が発生することがあります。学術雑誌に投稿する場合、著作権の一部（複製権等）を出版社に譲渡するという条件が付されていることが多いため、自分で執筆した論文であっても、出版社に無断でインターネット公開できないケースがあります。

最近の状況では、大手出版社は条件付きでリポジトリ掲載を認めていることが多いです。よくある条件は、学術雑誌掲載後、一定期間が経過した後ならば掲載を認める、出版社版は掲載不可だが著者版なら掲載可、掲載雑誌名、巻号、掲載ページ、DOI等を明記する、といったものです。著者版とは、それぞれの雑誌固有のレイアウトに組み込まれた完成形ではなく、Word等で書かれたままの状

態の論文です。雑誌に投稿する論文をいずれリポジトリに掲載するかもしれないという場合、途中経過の状態の論文も保管しておくことをお勧めします。図書の場合は、発行されてから相当の年月が経過し、絶版等で容易に入手できない状況にある場合などは、リポジトリ掲載の許諾がもらえることがあります。

弘大リポジトリは、これからもコンテンツを増やし、地道に成長を続けていきたいと思っています。リポジトリはつまるところ、コンテンツの保管場所であり、コンテンツ無くしては成り立ちません。学内の先生方、大学院生の皆さん、ぜひ登録をお願いいたします。

(さいとう かおり)

他大学図書館紹介

弘前医療福祉大学総合図書館

弘前医療福祉大学図書館長 加地 隆

弘前医療福祉大学は、昭和40（1965）年に設立した弘前料理学院が起源で、平成21（2009）年に開学、短期大学部は平成14（2002）年に開学し、今年短期大学としては全国初の3年制での救急救命学科を付設、スタートしたばかりの発展中の大学です。現在、図書館ではコンピューター関係の整備をしながら、大学の図書を充実させつつ、短期大学部のとくに救急救命学科関係の図書を購入しています。大学は小規模でまた開学からの年数が浅いため、蔵書数は十分とは言えませんが、教

員の指導や学外実習中の長期貸し出し制度等もあり、また卒業生を含む学外からの利用も多く、グループ学習室の利用も含めて、図書館がよく利用されているのが特徴となっています。地域の人たちによって生涯学習のために有効活用していただけることも本学図書館の重要な課題と考えています。また、大学1年次学生のカリキュラムにおいて今年度からスタートした基礎ゼミナールにおける各種指導により、図書館の本がさらに良く利用されることを期待しています。

次に、大学開学以来の最近5年間の本学図書館の取り組み方や特徴について、上に述べた事と関連して、またそれ以外の点についてご紹介します。

1. 新着本コーナー（写真1を参照）や推薦書コーナー等により学生に興味をもたせ、本を手にとって内容を見る機会をつくる試みをしています。
2. 敷居を低く、視野を広くする試みとして、ブックレット（小型本）コーナーを設置しました。
3. グループ学習室を館内に2部屋設置（写真2を参照）しており、この部屋は各種試験の勉強会や卒業研究等とも関連して利用頻度が高いようです。
4. 図書館事務員が2人に増え、事務処理や利用者へのサービスも円滑になりました。
5. 館外にある学内掲示板を用い、またわかりやすい館内案内表示により案内・情報提供をしています。